

授業概要

中学校国語科の求められている各領域の指導事項を基礎的・基本的な内容として生徒が確実に習得していくための教育法を確立するとともに具体的な方法を講じて授業展開していく。特に、新版の教科書教材を活用しつつ、生徒に求められている各領域の能力を身につけるためには指導方法等の工夫改善がなくてはならない。

したがって、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化」等の系統性を理解して、言語活動例としての生かす手立てを講じる必要がある。授業では、中学校段階として求められている国語科の具体的な教材を通して授業改善につなげていく方策を探るようにする。さらに、情報通信技術の導入を踏まえた授業設計の方法についても指導する。

授業計画

第 1 回	中学校で求められている国語の指導力・短歌俳句等、韻文系教材の指導
第 2 回	「読むこと」に関する学習指導・文学教材に関する教材分析と授業設計
第 3 回	「読むこと」に関する学習指導・説明文教材に関する教材分析と授業設計
第 4 回	「読むこと」に関する学習指導・古文教材に関する教材分析と授業設計・ICT の活用
第 5 回	「読むこと」に関する学習指導・漢文教材に関する教材分析と授業設計・ICT の活用
第 6 回	学習指導案の書き方・模擬授業計画・教材文の読み込み・分析の交流
第 7 回	「書くこと」に関する学習指導・書くことの基本 記述後指導の交流場面での重要性
第 8 回	「話すこと、聞くこと」に関する学習指導・パネルディスカッションによる話し合い活動
第 9 回	「書くこと」の系統性の具現化(2) ・投書を読み、短文で書く活動を指導する
第 10 回	伝統的な言語文化の具現化 ・漢詩を味わう ・近代の俳句を鑑賞する態度の育成を指導
第 11 回	書写の実際 ・行書の実際、行書の原則の理解 ・硬毛関連の考え方を指導する
第 12 回	指導案の書き方 ・指導案の実際と書き方 ・生徒の実態の考え方を指導する ICT の活用
第 13 回	中学校国語科模擬授業実践(1) ・受講者による模擬授業 ・授業に対する意見交流と評価
第 14 回	中学校国語科模擬授業実践(2) ・受講者による模擬授業 ・授業に対する意見交流と評価
第 15 回	国語科教育法Ⅲを振り返る ・授業の組み立て方 ・評価観の転換を目指す
第 16 回	レポート提出 まとめ

到達目標

中学校の国語科として身につけなければならない能力を具体的な授業設計をしつつ、模擬授業の実践を通して学習指導案の作成をより確かなものにし、授業協議会で意見を述べることができる。

履修上の注意

中学校で求められている国語科の能力は、各領域ともに「伝える力」をいかに身につけていくかということである。したがって、生徒の力を引き出すための授業の在り方そのものが問われることになる。日頃から授業改善をするという強い信念で立ち向かえるよう努力をしてほしい。模擬授業の機会を増やし、実践力をつける。なお、履修にあたっては、3 年次前期で履修し、国語科教育法Ⅰ・Ⅱをすでに履修し終えていること。

予習・復習

- ・予習、復習をして各領域の基礎的・基本的な内容を理解して、教材研究の習慣を身につけること
- ・ノート整理をして学びの習慣化を図ること
- ・日頃から社会問題に関心をもって様々な話題に対処できるようにしておくこと

評価方法

授業内の学習活動（30%）及び、授業内での提出物および、模擬授業の学習指導案の作成（30%）、授業の達成目標の達成度を課題レポート（40%）によって評価する。

テキスト

- ・教科書名：『中学校学習指導要領解説書国語編』（文部科学省）
- ・著者名：
- ・出版社名：東洋館出版社
- ・出版年（ISBN）：978-4-491-03470-6